

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

夏秋トマトにおける地上病害の発生状況と防除対策（技術情報第10号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

夏秋トマトにおいて、すすかび病の発生が多い状況です。うどんこ病や葉かび病も一部のは場で多発生が確認されています。これらの病害は今後もさらに増加することが懸念されるため、積極的な防除対策によりまん延防止に努めましょう。

1 現在の発生状況

- (1) 8月の巡回調査における夏秋トマトの病害は、すすかび病は発病株率60.0%（平年43.9%）、うどんこ病は発病株率29.3%（平年4.3%）、葉かび病は発病株率31.0%（平年13.1%）といずれも平年比多の発生であった（図1～3）。灰色かび病（茎葉）は発病株率6.7%（平年20.9%）と平年比やや少の発生であった（図4）。
- (2) 病害虫防除員の報告では、8月中旬時点でうどんこ病は平年比やや多、すすかび病と葉かび病は平年並、灰色かび病は平年比やや少の発生であった。

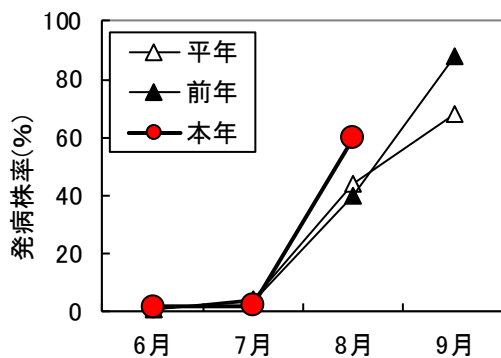


図1 すすかび病の発病株率の推移

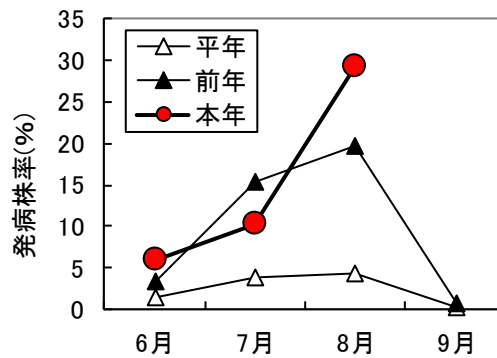


図2 うどんこ病の発病株率の推移

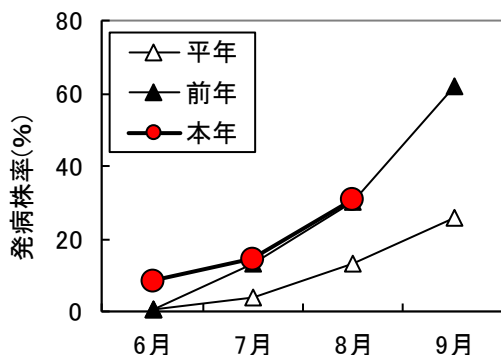


図3 葉かび病の発病株率の推移

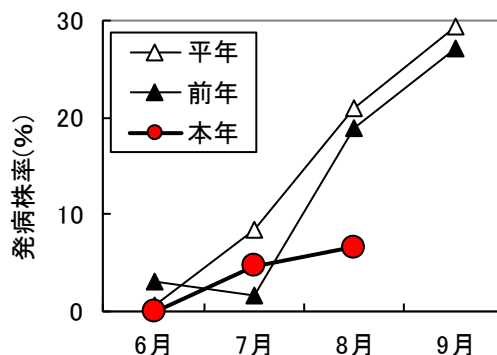


図4 灰色かび病の発病株率の推移

## 2 今後の発生予想

福岡管区気象台が8月25日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高く、降雨量も平年並から多い予想のため、病害にとって好適な湿度条件になることが予想される。

## 3 防除対策等

- (1) 複数の病害が併発しているほ場では適用範囲の広い薬剤を選択する。感染から発病までの潜伏期間はすすかび病が25℃付近で3週間程度、葉かび病は2週間以上と比較的長く、病害が多発してからの防除は困難となるため、予防防除を重点に行う。
- (2) 密植や過繁茂を避け、通風採光を良くする。ハウス栽培では換気を図り、多湿を避ける。
- (3) 発病葉等や被害残さは伝染源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。
- (4) 病害によっては肥料切れや樹勢低下により発生が助長されるため、適正な肥培管理を行う。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

熊本県病害虫防除所

(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)

担当：中井、福岡

TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493